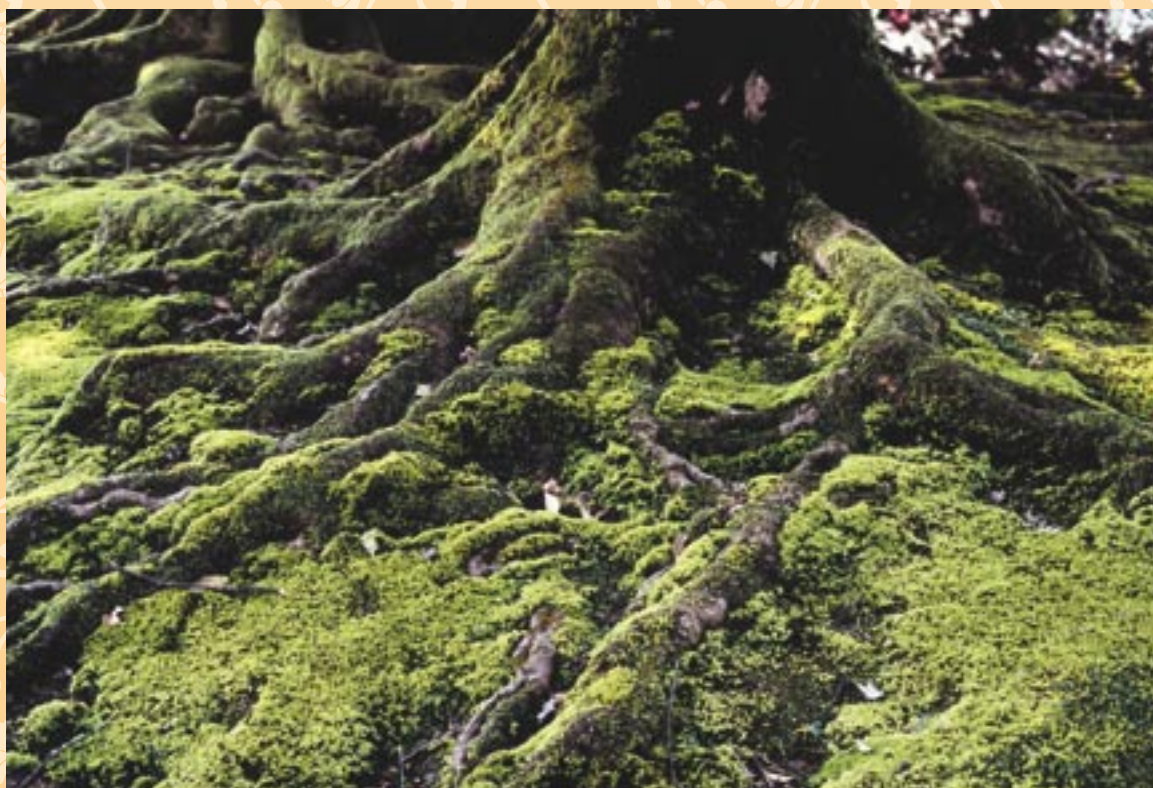


肘水

第8号

肘水神社社報 平成19年6月発行



ご挨拶

射水神社宮司 松本正昭

今年の桜の開花時期は、二月の温暖な気候から早いのではとの予想でしたが、三月の寒さで例年通りの時期に開花し、その桜も散り雨後の新緑が目には沁みる季節を迎えております。当神社が鎮座する古城社も四季折々に我々の目を潤し、若返りを感じさせてくれております。

去る三月二十五日、予想もしなかった真近の能登沖を震源とする震度七の大地震が起きました。幸いにも高岡の地はそれ程の被害も無く安堵しておりますが、同じ文化を持つ能登地方は被害も甚大であったようで、心よりお見舞い申し上げる次第であります。

この様な自然災害に遭遇した時、今更ながらに自然の恐ろしさを感じるのですが、先人は、四季の移いに、自然を敏感にとらえ、その中に神の存在を意識しながら、自然の恐ろし

さ、自然の恵みに畏敬の念と感謝の念を持ち、自然の中に宿す八百万の神々をお拝む心を育ててきたのが日本人の心であります。殊に、その日本人の心が感じ取れるが、伊勢神宮の神域であります。

その伊勢神宮では、平成二十五年に二十年ごとに執り行われる第六十二回式年遷宮が行われます。古式のままに次期遷宮御敷地に新しい御社殿を造り、御装束・神宝をも新しく調え大御神に新殿にお遷りを願う行事であります。千三百年の永い歴史と伝統を有し、日本建築の原型を今に伝え、日本古来の伝統・文化・技術の伝承を可能にする極めて文化的意義が高い事でもあると共に、新しくなることで、大御神のより新しい御光を戴き、日本の国の命を新鮮にし、国の若返り、さらに永遠を目指し祈りを捧げることで

あります。

中には二十年ごとに新しくご社殿を新築するのが何だか勿体無いという疑問を耳にします。

この事について少し考えてみますと、第一回の式年遷宮は西暦で申しますと六百九十年ですが、この当時は皆様ご存知の世界最古の木造建築の法隆寺がすでに造られております。当時の技術からすれば伊勢神宮も永久的なご社殿を造ることが出来たはずで、それをあえて、法隆寺のような土台石を用いないで、掘立柱に茅葺の屋根という素朴な檜造りした事に威儀があるわけがあります。

型ある物は何時か朽果て無くなります。ただ、建物の駆逐が理由ではなくて、古来からの技術をそのままに人から人へ伝え、二十年ごとに造りかえることにより永遠をめざしたのであります。つまり、二十年ごとに

生まれ変わるという発想、これは世界のどこにも見られない日本人独特の考えからです。

私たちの人生も産まれて二十年で成人になり、それからほぼ二十年経て初老という節目を迎え、さらに二十年を重ね還暦となるということで、人生にもこの二十年毎に転機があるわけがあります。

二十年ごとの式年遷宮は日本人の人生観に相通ずるものがあると思います。

式年遷宮は国を上げての最大のお祭りであり、戦前までは国の予算の中に組されていたのでありますが、戦後、国からの予算が断たれ、今度の遷宮に要する経費五百五十億円の内二百二十億円を広く国民の皆様から募財を募らなければなりません。何卒、式年遷宮の趣旨に賛同賜り、心からの奉賛をお願い申し上げます。

奉賛会報告



綿貫会長の挨拶

去る、平成十九年五月二十九日。射水神社参集殿にて平成十九年度射水神社奉賛会総会が開催された。

総会においては、昨年行われた遷座百三十年祭記念事業の経過報告や、平成十八年度に奉賛会が関わった各事業の報告。そして本年度の事業計画などが話し合われた。

尚、射水神社「あけぼの敬神講」が創立100周年を迎えることから、射水神社奉賛会も可能な限り助力して行くことも確認された。

総会議事終了後、恒例となっている基調講演は「まぼろしの高岡城」と題し、山元醸造(株)文化部長 山本和代子先生よりご講演を賜った。現在ある高岡城の研究成果は、文字資料に立脚した成果であるが、肝心の文字史料が不足しているため、十分な検証にいたっていない。その不足を補うためには、絵画や石垣の石など同時代の痕跡をとどめる遺物を、丹念かつ網羅的に比較検討する必要性を説くと同時に、今回の講演が、高岡市民全体が想像の翼を広げ、この城の当時の有り様を議論する契機となれば。とのご講演をされました。



スライドにて講演する山本先生

観月祭のご案内

日時 平成十九年九月十五日(土)

午後六時 開演予定

主催 観月祭実行委員会

射水神社奉賛会

場所 射水神社境内(特設舞台にて)

※雨天の場合射水神社参集殿

出演 洋遊会(雅楽)

都山流 高琳会(尺八)

富山県神社庁雅楽部(雅楽)

※それぞれ予定

尚、駐車場は古城公園内、各駐車場をご利用下さい。



式年大祭記念事業 奉賛者名簿

十万円

- ・モトヨシ美術印刷
- ・ミヤワキ建設株式会社
- ・京都奉製株式会社

伍万円

- ・中川 貢

三万円

- ・日本ゼオン株式会社

一万円

- ・片原町自治会
- ・向田哲郎
- ・川西誠治
- ・前浜澄子
- ・高浦孝文
- ・四津川公
- ・荒木 潔
- ・菅原一誠
- ・大村行範
- ・三浦正清



杜の景色

杜の景色（上半期）

- 1月1日 歳旦祭 初詣
- 1月14日 左義長
(射水の火祭)
- 2月節分 節分祭
- 2月11日 紀元祭
- 2月17日 祈年祭
- 4月18日 日吉社春祭
- 4月23日 春季例大祭
- 4月29日 植樹祭
- 4月30日 院内社春祭
- 5月13日 悪王子社春祭
- 6月27日 鎮火祭
- 6月30日 夏越大祓
- 人形清祓式

初詣

射水神社では、本年も例年以上の御参拝を賜り、賑々しく平成十九年を迎えることができました。特に本年は昨年九月に竣工致しました拝殿の増築により、例年とは参道順路などに、若干の変化が生じましたが、昨年末からの記録的暖冬の影響もあり、無事三日を終えることができました。

また、射水神社初詣年頭の風物詩ともなっております、午前〇時の合図を兼ねた打ち上げ花火も夜空に大輪の花を咲かせ、参拝客の目を楽しませることができました。



左義長

一月十四日に執り行われます、左義長（射水の火祭り）は、本年も高岡市消防本部・地元消防団のご協力により、事故無く、無事に終えることができました。

昨年末より雪のシーズンにも関わらず、北陸地域では例年になく降雪が少ない珍しい年となったため、左義長の開催を危惧する声も上がりましたが、左義長の櫓に火を点火する直前に、拝殿から本殿にかけ、また境内樹木などにも十分な放水、また火が残る真夜中の警備を強化するなどの対応のもと、無事肅行することができました。



植樹祭

四月二十九日の昭和の日にあたり、境内にて植樹祭を執り行いました。植樹いたしました樹種は「高野槇」ご承知の如く悠仁親王殿下のお印の木でございます。昨年二月の皇孫殿下のご生誕は、国内はもとより、世界最長の歴史と伝統を誇る我が皇室のご慶事とあつて、慶びと共に大きな関心事として世界を駆けめぐりました。例えば日本人が皇室を表現する時、歴史や伝統といった言葉以上の重みを考えます。皇室を語ることは、すなわち我が国を語ることであるからです。皆様と共に、皇孫殿下の健やかなる御成長を切に御祈念する次第でございます。



神前結婚式

御神恩をいただき、幸おからん事を。

平成18年12月挙式の方々

水巻 右文・香織

細川 忠博・章子

松野 靖範・友美

布原 英基・直子

中尾 秀行・佳代子

尾崎 功・希

表 孝拓・若奈

森 崇・美和

平成19年1月挙式の方々

岸 徹郎・ひとみ

平成19年2月挙式の方々

椿原 正・麻衣子

平成19年3月挙式の方々

釜谷 公一・智子

岡崎 益久・真弓

嶋 公二・明子

坂林 正登・彩未

榮前田 博志・美香

堀内 孝宏・雅代

余川 一隆・裕美子

永井 一也・倫子

和田 英世・朋子

吉山 俊弥・礼子

竹下 和徳・香子

今井 晃一・有加

滝 弘太郎・岩

大和 健一・美智子

水上 憲三・理恵子

小松 秀俊・明子

平成19年4月挙式の方々

金木 達哉・恵

塩井 達也・千春

米田 康宏・麻美

杉野 学・佳代

五十嵐 康成・珠美

小塚 洋平・美穂

宮越 利夫・香織

林 直人・友美

本江 克之・志織

平成19年5月挙式の方々

中西 宏文・幸子

氷見 長夫・絵美

新開 司・左和子

川堰 英一・千亜紀

福井 健太・静

池島 和明・晴子

谷内 嘉達・倫枝

狩野 恵彦・聖子

四間丁 勲・紗弓

平成18年12月～平成19年5月挙式の方々



人形清祓式のご案内

夏越の『大祓』ご案内

一、日時
一、場所
一、初穂料

六月三十日 午後六時齋行
射水神社境内
お心持ち

一、日時
一、人形受付
一、初穂料金

六月三十日 午後六時齋行
午後一時～午後五時まで
志ですが一世帯二千円程度が目安です。

越中の食彩

高岡市農業協同組合
代表理事組合長

穴田 甚朗

お米の話②

ところで自給率で大きな割合を占めているコメの国民一人当たり年間消費量はどのくらいかご存じですか。農林水産省の最近の統計によれば国民一人当たり年間に消費するコメの量は60kgとのこと。

日本人にとって「米こそが力の源」として常に主食であり続けるコメの消費は昭和50年代には年間100kgを超えていましたが、その後消費減に歯止めがかからず今日のような消費量となりました。年間60kgといえは、一人当たり160kg（約一合）しか食べないことになり、その値段はとびつきり美味しい富山県産コシヒカリでもわずか65円位ということになります。

規則正しい食生活が疎かになり、パン食や加工食品、肉類の消費拡大が知らず知らずにコメの消費減を招いたのではないのでしょうか。

今、食育の大切さが叫ばれ「地産地消」の推進を含めた幅広い取り組みが盛り上がっておりますが、日本の食文

化の基本はごはんとい汁三菜でありま
す。健康と生命を育むため多くの情報
に惑わされず、日本型食生活に回帰す
ることを痛感しております。

食糧自給率の向上には農家・生産者
の努力は勿論、必要であります。消
費者の食に対する意識改革と国民一人
ひとり自らの胃袋は自国の食料で賄
うという合意形式が最も重要なことだ
と考えています。

伊勢神宮の神田



写真 神社新報社

神道

いろは

金品をお供えするときの
表書きの書き方について
教えてください。

御神前に金銭や食物、お酒な
どをお供えする際に記す表書き
には幾つかの書き方があり、「御
神前」「御供」「玉串料」「御神料」「初
穂料」等の書き方が一般的です。
「御神前」「御供」という表書きは
説明するまでもありませんが、「玉
串料」「御神料」とは玉串や神の
代わりに、また「初穂料」とはそ
の年に初めて収穫されたお米の代
わりに、それぞれお供えする料で
あることを意味しています。

このほか「上」や「奉獻」「奉
納」と書かれる場合もあります。
「上」はよく神様や目上の方に対
する御礼の際の表書きに用いられ
る語です。

「上」はお神札（ふだ）・お守り
などの授与品や撤下神饌を入れ
る袋の表書きにも用いられます
が、この場合、撤下品は神前にお
供えする際、「上」と記すのであつ

て「上」とはあくまでもお供えを
する神様に対して用いられる語と
いうことができます。一方、お神
札やお守りが御神霊の御加護を戴
く尊貴なものなので丁寧さを表現
するために「上」を表書きにして
いると考えられることもできます。

このほか神式の葬儀のお供えに
関しては「御霊前」や「玉串料」「御
神料」といった表書きが用いられ
ます。市販の不祝儀袋には「御霊前」
とあつても、蓮の文様がついてい
る場合がありますが、これは仏式
用のものなので注意して下さい。

表書きには、神事に用いられる
以外にも冠婚葬祭を通じてさまざ
まな書き方があり、自らの気持ち
を伝える意味でも大切なものとい
うことができます。



神社新報社刊『神道いろは』より

『ふるさと』

射水神社

⑧射水神社と撰末社

「社伝ニ行基カ本社勘請ノ節八百式拾末社トアレドモ詳ナラザル説ナリ。在来ノ末社ハ四社ナリ。」

（射水神社史抜粋の一節）

末社四社とは戦国の兵乱に遭い消失した後のことであろう。

明治四年国幣中社に列格せられた後、在来の末社四社の取り扱いについて、内務省よりの通達の原文に依れば、

明治十年三月二十一日内務省達

其社撰社別紙之通相定候條此旨相 達候事

内務卿 大久保利通代理

内務少輔 前島蜜 印

〔別紙〕越中國射水神社撰社

日吉社

悪王子社

院内社 以上三社

右達ニ洩レタル諏訪社ヲ末社トセシナリ

撰末社について内務省通達を補足要約すると次のように考えられる。

日吉社 撰社

〔祭神〕大山咋命

〔社地〕二上山第一ノ峰、二上谷内鎮座

〔俗称〕奥の御前

〔由緒〕由緒勸請年月不詳。従来射水神社の末社と称したが、明治十年撰社に決定。

〔祭日〕四月十八日、九月二十二日

悪王子社 撰社

〔社地〕二上山第二ノ峰、二上谷内鎮座

〔俗称〕前の御前

〔祭神〕不詳とあるが、地主の神である。

〔由緒〕由緒勸請年月不詳。従来射水神社の末社と称したが、明治十年撰社に決定。

〔祭日〕五月十三日、七月十日

院内社 撰社

〔社地〕二上山前面北ノ峰、二上院内鎮座

〔俗称〕現在の山園町

〔祭神〕菊理媛命

〔由緒〕由緒勸請年月不詳。従来射水神社の末社と称したが、明治十年撰社に決定。

〔祭日〕五月三日、十月三日

諏訪社 末社

〔社地〕二上山前面西ノ麓、二上友田鎮座

〔俗称〕現在の二上土地内

〔祭神〕建御名方命

〔由緒〕由緒勸請年月不詳。従来射水神社の末社であり、明治十年の内務省達に通知洩れであったため、後に末社と定められた。

〔祭日〕八月二十七日

この中で、悪王子社の祭神が内務省達では不詳と記されているが、地主の神であることが識者諸賢の研究意見である。御祭神である「二上神」の神格を探究するには、地主神「悪王子社」の創建に遡る必要がある。このことについて、神仏混淆時代、射水神社の別当寺であった二上山養老寺に保存された社伝にたいへん興味深く記されている。



編集後記

『射水』第八号をお送り致します。紙面にてご紹介致しました様に、第二回観月祭が執り行われます。崇敬各位におかれましては、何卒前回同様のご支援ご鞭撻をお願いする所でございます。

表紙の写真は四季折々変化に富む古城公園内であって、変わらぬ美しさと尊厳を保つ大木の写真でございます。実は小誌編者、都市公園にご縁があり、かつての奉務先は水戸の偕楽園に隣接する神社でありました。海外渡航者は年々その数をふやしておりますが、反面国内の公園が適正に評価されているのかという疑問。偕楽園は梅、古城公園は桜というイメージが先行しますが、新芽がのびる若木、通年緑をたたえ物言わず佇む老木。博物館や美術館を楽しむように、園内特定の場所を、アカデミックに楽しむだけではなく、その風土が育んだ名も無き樹木の傍らに一時の涼を求める贅沢。花の時期を終えた初夏も、公園の「やすらぎ」が見いだしやすい素晴らしい季節であると思う次第です。

発行 射水神社
発行所 〒九三三-〇〇四 高岡市古城一
TEL (〇七六六) 二二一三-〇〇四
FAX (〇七六六) 二二一三七-一五
印刷所 キクラ印刷株式会社



悠久の歴史にいだかれ
とこしえ
永久の愛をお誓いいただきます。



厳かに執り行う

「本殿大前式」

参
集
殿
通
信



—うつくしの杜ブライダルフェアのご案内—

Utsukushi no mori Marriage story



IMIZU JINJYA

ブーケブルズで幸せのおすそわけ 平成18年3月挙式

うつくしの杜 夏フェスタ プチブライダルフェア

平成19年7月8日(日)

10:00 ~ 18:00

- 模擬挙式・結びのセレモニー・ビデオレター
- 試食会
- 会場コーディネート展示・料理・引出物展示
- 和装・洋装衣裳展示
- 相談会

婚礼相談会

平成19年7月1日(日)・7日(土)

14日(土)・15日(日)・16日(月・祝)

21日(土)・22日(日)

- 相談会・結婚式場・披露宴会場見学
- 婚礼ビデオ上映

うつくしの杜、結婚式場

射水神社

〒933-0044 高岡市古城1番1号(高岡古城公園内)

お問合せ (0766) 22-0808

U R L ■ <http://www.imizujinja.or.jp>

Eメール ■ jinjya-k@mbs.sphere.ne.jp